

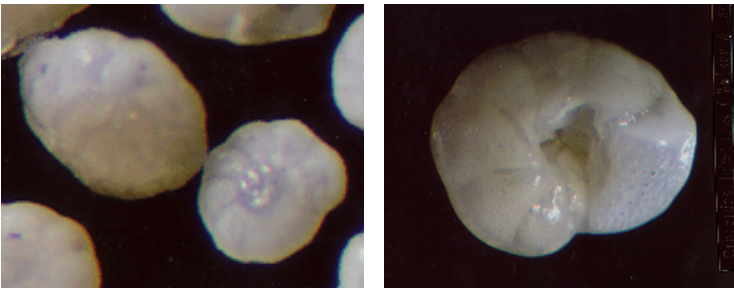
大垣市金生山化石館

化石館だより

コラム

金生山の小型有孔虫

海岸の砂浜を歩くと、波打ち際に添って海藻類が細い筋状に打ち上げられていることがあります。これらの中からはビーチグラスや美しい貝殻が見つかることがあり、これを拾って歩くのも楽しいものです。また砂浜に打ち上げられた海藻や貝殻の下にある砂を少々持ち帰って顕微鏡で観察すると、小さな貝殻やウニの棘、有孔虫の殻などを観察することができ、いつの間にか砂の中の小さな生物の世界に引き込まれてしまいます。

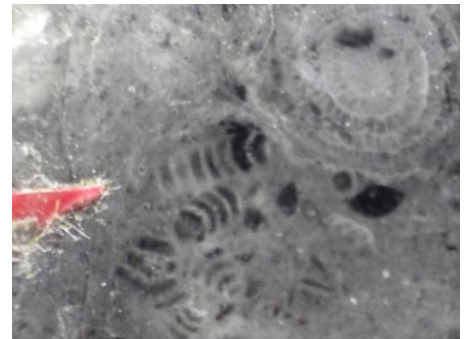


左：パラロタリア 右：シビシデス いずれも現生種

有孔虫は石灰質の殻をもつ単細胞の生物です。大きさは殆どが1mm以下の小さなものですが、化石種では1cmを超える大型の種類もあります。金生山で最も多く見つかる化石にフズリナがありますが、フズリナは絶滅した大型の有孔虫です。現生の大型有孔虫では星砂（ホシズナ・タイヨウノスナ）が比較的良く知られています。

有孔虫の仲間は、カンブリア紀初期の地層から見つかっており、現在も世界中の海域に様々な有孔虫が生息しています。有孔虫類は生息数が多く、殻の形体も極めて多様であり進化的な変化を調べるのに適しています。そのため地層の堆積年代を比較検討するのに用いられています。また環境に合わせて異なる種が棲み分けていますから、有孔虫の種類や種構成を調べることで古環境を推定していくのにも役立っています。

赤坂石灰岩からも様々な小型有孔虫の化石が見つかります。通常は大型有孔虫であるフズリナ類を調べるため薄片標本を観察している場合に見つかるのですが、比較的大きな種であれば、石灰岩の表面を磨き内部構造を見やすくすればルーペで見つけることも可能です。金生山では、フズリナ類について良く調べられていますが、小型有孔虫についての報告は少ないように思います。図鑑類にもあまり紹介されていないので、馴染みのない方も多いと思います。しかし、金生山からは実に多くの小型有孔虫が識別されており、未確定のものを含めると60種にもものぼります。（小林文夫、2012）



研磨面で見られる小型有孔虫
右上はフズリナ

